



みどりのきずな

平成25年9月1日発行 第21号

【緑区地域福祉計画基本理念】

『地域住民のきずなを深め、みんなが
手を結び合い、住みよいまちづくりを推進する』

—明るい社会を築いてきた高齢者のために—

—未来を築く子どもたちのために—

—障害者(児)が希望を持って地域に生き、働けるために—

編集:緑区地域福祉計画推進協議会広報部会

発行:緑区地域福祉計画推進協議会事務局

(緑保健福祉センター 高齢障害支援課内)

千葉市緑区鎌取町 226 番地 1

TEL:043(292)8142 FAX:043(292)8276

「お節介をやく」のも

人と人の「結」^{ゆい}

委員長 岡本 博幸

ナメクジを見たお孫さんが言った
そうだ。「カタツムリも外で遊びたい
んだな」と天声人語(6月27日)に
書かれていました。幼児の素直な想
像にほのぼのした気持ちになりました。
同時に高齢者の方々のことが想
像されました。家の中ばかりいな
いで、様々な殻を脱いで外に出てみ
たいのだろうなと思いました。世の中
には興味深いことが沢山あり人や物
に接することによって感動が揺り起
こされてきます。心とませてくれま
す。心の癒しになることがあります。
生きる喜びをいただくことができます
からです。

「高齢者の方々が外に出て『お節
介をやく』ことは、地域社会で大事
な役割を果たしており、人々の間の
潤滑油となっている。そのことを大
事にした。」という社説を読み納得
したことを覚えています。今は、あ
まり人と関わりたくないという自己
中心の社会になっており「お節介を
やく」社会は嫌われがちです。広い
心で接することも地域社会では大切
なことではないでしょうか。

子どもの頃注意してくれたおじさ
ん、色々なことを教えてくれたおば
さんがいました。その頃はうるさい
おじさん、おばさんと思っていまし
たが、今になるとその経験が生きて
いることが多々あります。経験・体
験したことは何一つ無駄なこととは
ないといわれています。「お節介やくこ
とも、やかれることも」人間関係の
「結」として大切なことだったのだ
と思います。

「お節介」とは「余計な世話をや
くこと」「他人の事に不必要に立ち入
ること」と、広辞苑では書かれてい
ます。辞書ではマイナスな面ばかり
です。しかし、地域社会では「お節
介屋さん」も大切な役割を果たして
いることが沢山あります。プラスな
面も多々あります「やく」は「焼く」
が使われますが、「やく」には「役・
易・益・薬・躍」等があります。「お
節介は役」「お節介は薬」「お節介は
役」「お節介は易」とあてはめ考えて
みると、焼いて面倒ばかりかけるの
ではなく、かえって、良い解釈もで
きると思います。「やく」は人と人と
の「結」の初めではないでしょうか。



「お節介をやく」といえば椎名地
区の古市場団地に「3ババ会」とい
う会があります。この会は3人の婆
婆さんが立ち上げた、お節介な会な
のです。3人は団地の高齢者の方々
に対して
「話相手がいなくてさみしい人、病
気や急用があつたとき相談にのつて
ほしい人、ちょっとした家事の手伝
いをしてほしい人」に対して
「どうぞお電話ください。自治会館
にお集まりください」

と掲示板に張って活動を始めたそう
です。しかし、誰も来ないこともあ
つたり、何もしないで話だけでも寂
しいから、今は、個人宅に集まり愚
痴話で心の憂さを晴らしたり、手芸
を一緒に作ったり、食事を一緒にし
たりしているそうです。電話ではい
つでも受け継いで、話し合いに応じ
るよう心掛けています。すばらしい会で
す。

「3ババ会」は誰から頼まれたも
のではありません。「ドア1枚で誰が
住んでいるか、どんな人なのかわか
らない人が増えてきている今、もつ
と顔見知りを増やそう地域の人に関
係をゆたかにしよう」ということか
ら、自然発生的に始まった会です。
これこそ「お節介をやく」心根が
込められていると思っと思っています。

誉田地区

◆誉田の七夕まつり



7月7日は「七夕まつり」です。今年で12回目を迎えました。夏の風物行事として地域の人達の親睦と活性化の一助にと「ふれあいサークル」の1行事を展開しました。誉田東小学校の子どもさん達に短冊に願うことや将来の夢等を書き込んで頂き校門の竹や地域の協賛商店や施設等に飾付けをしています。ここ数年はサークル会員の高齢化で開催主体を「第1長寿会」が引き継いでいます。

7月1日から飾り付けを開始し4日には誉田東小全児童や地域のボランティアが協同で校門前に飾りつけし、記念写真の撮影で飾り付けが完了します。7日の午後には楽しい七夕集会在第2自治会館を会場として近隣の子どもや保護者、長寿会メンバーなど総勢百数十名で全員参加の歌の会、手品、腹話術、ビンゴゲームなどで楽しいひと時を過ごしました。翌8日は早朝から飾付けの撤去。午後は慰労会を行い、事故もなく無事終了しました。

◆第47回誉田地区子ども会スポーツ大会



7月7日(日)、誉田小学校体育館に於いて、第47回誉田地区子ども会スポーツ大会を開催しました。単位子ども会5団体の親子が参加し、幼児、小学低学年・高学年、大人、親子でジャンケン、リレー(障害物・ドリブル・腹巻送り)・玉入れ、スリッパ飛ばし、パン食い、ジャンボかるたとり、応援合戦等々あり1日遊び、来賓の方々も楽しんで見守っていただきました。競技進行も青少年相談員とPTA役員の協力と子ども会リーダーズの健闘もありスムーズに実施できました。

誉田地区子ども会育成連絡会は、昭和42年6月に創立総会(14団体・会員数6百余人)以来、社会体育指導員(当時名)と青少年相談員の協力のもと、校庭に応援陣地を設けチーム対抗としてドッチボール・綱引き・リレーなどを継続してきましたが、近年は会員の縮小に伴い体育館の中ではありますが、全員参加できるゲーム競技をこれからも行っていく予定です。



土気地区

◆「ガーデンコートサロン」

子ども会活動も、幼児から小学生と中学生の年代間で過ごし、日々1つでも体験経験のできる場づくりを継続していきますので、今後も皆様のご指導、ご協力をお願いします。

10月で開設1年になる新しいサロンです。自治会のアクティブクラブの会長さんが中心になり、サロンへの参加を呼びかけてくれております。「同じ棟だった人ですね」「出身地同じです」と話しが広がってきます。今はおしゃべり、軽い体操、頭の体操で問題を解く等をし、最後に歌集の中から3、4曲を歌って終了となりますが、これからは皆さんの希望も取り入れて、サロンをもっと楽しんでもらえるようにしていきたいと思います。

毎月第3水曜日、午後1時から新しいガーデンコートテラスでお待ちしております。



◆ふれあい体験学習

今年もまた土気・越智・土気南中学校の3年生を対象にした思春期ふれあい体験学習に子育てサロンに参加している親子が講師として参加しました。

3校とも12、13組の親子がクラスごとに分かれ、生徒達は、母親から妊娠から出産、育児についての体験談を聞き、その後赤ちゃんに触れ合う時間を持ちます。ニコニコ赤ちゃんもいれば、人見知りが始まって泣く子もいます。それでも生徒たちは、赤ちゃんの手足にふれたり、抱っこしたり、泣く子をあやしたりと、少しでもだけ育児体験をしています。生徒たちには、赤ちゃんの感触や体温から、かけがえのない命の尊さを知ってもらいたいと思います。



赤ちゃんカワイ〜♪



椎名地区

◆お元気でしたか？

まずは「あいさつ」から！

椎名地区は、歴史ある町で、昔より向こう三軒両隣での互助気風の強い地域ですが、近年核家族化および勤務形態の変化に伴い、その気風も薄れつつあります。特に、古市場町にある3つの市営団地では、一人住まいの高齢者も多くなり、孤独死や引きこもりの防止に、「声掛け」を個人的な3名の仲良しグループが自発的に活動を行って、老々介護の苦労話やよもやま話、ちよつとした買物のお手伝いなどをしておりまゝです。個人的な活動にはおのずと限界もあるため、この活動を3団地合同で推進するための組織「お元気確認隊」を設立しました。



お元気確認隊！

現在はまだ20名の組織ですが、組織化することで、外部の出入り業者とも情報の共有化の契約もでき、「個人情報」を厳守しつつ、いち早い対応ができるようになりました。

今後は、この活動の主旨に賛同される方の参加を募り、拡充を図ります。

また、約2ヶ月ごとに行われる自治会全員が参加する清掃などの諸行事は「お元気確認」する絶好の機会として活用しています。

「あれ！あの人の姿が見えないがどうしたのでしょうかね。」ちよつと声かけてみましょうね。



みんな元気です！

おゆみ野地区

◆第8回戦争体験を語る会を

終えて

「記憶」は「記録」することで生き続ける。

これは今回「戦争体験を語る会」に参加された方が投稿した本の冒頭の言葉です。この会の発起人の方も最初の挨拶の中で、ここで聞いた話を持ち帰ってみんなに伝えて欲しい。語りつなげることが大事・・・と訴えていました。本来の目的は「語りつなごう戦争体験」

そして常にお話の中で聞く言葉は「戦争は二度としてはいけない」・今回のこの会の感想の中でも多くの方がご自身の戦争にまつわるお話を書いてくださっています。そこで書いて伝えようと今回の内容を文章でまとめてみました。ご希望の方は女性の会事務局まで。



◆おゆみ野夏祭り

8月3日（土） 泉谷小学校校庭に於いて開催されました。

当日は、日差しもそれほど強くなく涼しく吹く風もあり比較的恵まれた天候でした。

16時に各自自治会や育成委員会の出店も営業を始め来場のお子さんにお菓子も配布を始め一挙に100人を超える列が出来ました。16時半、泉谷中学校吹奏楽部有志の皆さんによるファンファーレが高らかに響き渡り松戸実行委員長が開会宣言、続いて来賓の熊谷俊人市長からご挨拶をいただきました。

市長は「このようにお子さんが一杯のお祭りは初めてです。おゆみ野は緑も多く環境に恵まれ、私も現在子育て中ですが本当におゆみ野は子育てに最高の地域で夢のある街です」と会場中を見渡しながらから話されていました。挨拶後は気楽にスナップ撮影に応じていられました。

勇壮な太鼓の打ち出し、キッズダンス等につき大野緑区長のご挨拶があり、例年より参加者の多い盆踊りが21時まで続きました。

行政情報

コーナー

◆7月1日より

孤独死防止通報制度が開始

昨今、主に一人暮らし高齢者の孤独死が社会問題となつていていることから、市では、電気・ガス・水道のライフライン事業者や、新聞販売・宅配などの配達事業者と協定を締結し、高齢者等の孤独死を防止する取組みを開始しました。

協力事業者の検針員や配達員が日常業務で高齢者等の自宅を訪問した際、「新聞、郵便物、牛乳などがたまって」「洗濯物が数日間干しっぱなし」などの異変を発見した場合、保健福祉センターに通報してもらい、通報を受けた区の職員等が安否確認のため対象者宅を訪問し、必要に応じて支援を行います。

この制度のほか、地域における見守り活動の活性化などにより、孤独死のような痛ましい事故をできるだけ防止していきたいと考えています。



委員の一言

コーナー

千葉市身体障害者連合会

廣田 健次

世はまさに、ICT(情報通信技術)の時代。それは、障害者も例外ではありません。私自身、視覚に障害を持っております。普段は点字を使っていますが、画面に映し出された文字を、合成音声で読み上げてくれるソフトを組み込んだパソコンを使うと、漢字かな混じり文を、自力で書く事が出来ます。視覚障害を持つ友人の中には、事務職として、一般企業に雇用される人も増えてきました。携帯電話や、最近流行のスマートフォンにも、音声読み上げ機能付きの物があり、健常者と同様に、ケータイライフを楽しんでいます。

ICTの恩恵を受けているのは、もちろん視覚障害を持つ人ばかりではありません。聴覚障害者は、携帯電話の出現で、新しいコミュニケーション手段を手に入れました。



今までは、手話や筆談などで、周囲とのやり取りにとっても苦労していましたが、携帯電話のメール機能を使い、気軽に誰とでも話せるようになりました。

全身の筋力が衰えていく病気などで、寝たきりの生活をされている方が、指や眼など、動かせる体の部分と、その方に合わせた、ソフトや周辺機器を組み込んだパソコンで、自分の思いを文字に表し、ホームページを作ったり、ツイッターやフェイスブックなどで不特定多数の人達と、交流出来たりしています。

今後は、障害者がパソコンや携帯端末を利用して、社会にもっとアピールし、誰でもアクセスしやすいホームページや、誰にでも使いやすいソフトの開発に、もつと心を砕いていただける方を増やしたり、ユーザーの障害の特性を理解した上で、パソコンや携帯端末の操作法を教えていただく人材の確保など、課題を少しずつ克服しながら、ネット社会の恩恵を享受出来る方が増えていく社会の確立を望みたいところです。

杜協情報

「フードドライブ」 (余剰食品の回収)

フードドライブを知っていますか？ご家庭で余っている食品を寄贈していただき、福祉施設や地域で困窮する方の支援に活用します。

皆様のご協力をお願い致します。

●ご寄付いただきたい食品
常温で保存可能で賞味期限が1ヶ月以上あるもの(例) お米・缶詰・乾物他

●回収場所

千葉市社会福祉協議会緑区事務所

(緑保健福祉センター2階)

電話043(292)8185

●主催

フードバンクちば

●期日

9月17日(火)～10月31日(木)

編集後記

記者というのを初めてやりました。記事集めの難しさを知り協力いただいた方々に感謝・感謝！

今後ともよろしくお願いします(TS)